

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]

【学習指導等】

・生徒の主体的な学びを引き出すこと、1人1台端末の活用の推進をキーワードに取組みを進めてきた結果、生徒向け学校教育自己診断における「授業が分かりやすく楽しい」の肯定率は78%、「授業へのICT活用の機会」の肯定率は88%で、昨年度を上回った。しかしながら、依然として、常設のプロジェクターの設置など環境整備が課題としてあげられ、教員のICTの活用についての肯定的な回答は45%にとどまった。

【生徒指導等】

・当たり前のことをしっかり行うなど、生徒の主体的に行動する力の育成に取り組み、「学校生活についての先生の指導は納得できる」と回答した生徒は77%と僅かではあるが、昨年度を上回った。学校全体の遅刻数も減少するなど、成果が出ている部分を他の行動につなげていきたい。

・「人権の大切さについて学ぶ機会がある」の問いに対する肯定率が、生徒で95%となっており、昨年度を上回った。研修や日ごろの教員の対応の成果であろう。

【学校運営】

・新型コロナウイルス感染症に係る影響のため、昨年同様、地域との連携を図ることが難しい状況であった。ホームページの積極的な活用など、教育活動の様子など広報を続けたが、新型コロナウイルス感染症に係る対応が一定、構築されてきたこともあってか、ホームページやメルマガの利用についての肯定率が保護者で60%となり、昨年度から大幅に減少した。

・「教育活動について、教職員間で日常的に話し合っている」と回答した教職員が66%と昨年度程度にとどまっており、引き続き、日常的に教職員が相互に高め合う職場をめざすともに、全体の資質向上に向けて、取り組んでいきたい。